

日経平均株価

2万7509円46銭

▲107円41銭(前日比)

TOPIX

1970.26

▲5.09(前日比)

2023

2/6

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



スポーツBIG大会満載

今年はスーパーボウルとWBC



WBCは東京ドームからスタートする

昇、AFCの相場は上
が勝てば下
落すると、言
われており、
的中率は8割
的とも、いわ
れ、日本人は
直接関係がな
い。試合の動向
は、投資家と
して注目をそそ
げない。その次
は、

りり様Wッ年る参続ダルタイ
が上杯ののの加々がホイト
予が盛同サ昨すとがホルト
は、

まず開催が迫るのが2月12日に開催されるNFL(ナショナル・フットボール・リーグ)の2022年スーパーチャンピオンを決める第57回スーパーボウル。

今年AFCHチャンピオンはNFLのチーフスとNFLチャンピオンのイーグルスがアリゾナのフェニックスで開催される。過去のデータではNFLが勝つのは年々、米国のトラウマや、

ミズノやアシックス、NXHD

昨年末はFIFAワールドカップカタール2022での日本代表の活躍に沸いたが、今年も2月のNFL第57回スーパーボウル、3月のワールドベースボールクラシック(WBC)2023、その先には7月サッカー女子ワールドカップ、9月ラグビーワールドカップが控えており、スポーツのビッグイベントが満載だ。これらスポーツイベントのマーケットに与える影響は昨年サッカーワールドカップをなどで実証済みであり、個別銘柄を含めてチェックしておきたい。

日経平均の日足チャート



想される。日本代表ユニフォームを提供するミズノ(8022)、大谷翔平選手にグラブなどを提供し大谷モデルを販売するアシックス(7936)、大会公式スポンサーのNIPPON EXPOホールディングス(9147)が注目される。加えてサッカー同様に観戦が楽しめる英国風パブ「HUB」を展開するハブ(3036)も忘れてはならない。

1月第4週の動意銘柄

子育て関連軒並み急伸

少子化対策に期待高まる

週明け23日、テノ・ホールディングス(7037)、グローバルキッズCOMPANY(6189) 幼児活動研究会(2152)、カラダノート(4014) など子育て関連銘柄が軒並み値を飛ばした。少子化対策の拡充に向けた政府の検討会が開催されたことと引き続き材料視された。岸田政権は

と241万5000株のオーバーアロットメントによる売出を実施すると発表したことと需給悪化が懸念された。売出株数は最大で発行済み株式数の13.3%。イオンのほか取引銀行などが主な売出先で、流通株式比率基準充足が目的。長期保有株主優待制度導入も発表したが、下支え効果は限定的。

イオン北売出で需給懸念

イオン北海道(7512)が大幅続落。1610万株の売出

た移動手段の構築と慢性的な交通渋滞の解消、各エリアの観光振興に取り組み。

ナカボテック上方修正増配 ナカボテック(1787)がストップ高。23年3月期の業績予想ないについて、売上高で135億円から142億8500万円8前期比10.7%増、営業利益で8億2000万円から11億4000万円(同7.3%増)

エディア連続S高

エディア(3935)が連続ストップ高。Nintend

ソフト「テレネット シューティングコレクション」のパッケージ版を6月8

水戸証券配当金下限20円

水戸証券(8622)が急伸、年初来高値を更新した。同社は20日の取引終了後、第六次中期経営計画期間(2023年3月期から2025年3月期)の剰余金の配当について各年度の1株当たり配当金の下限を20円とすると発表したことが好感された。

25日、DNAチップ研究所(2397)がストップ高。三井化学(4183)との資本業務提携を発表した。同社の遺産

DNAチップ三井化提携

子解析、診断分野、特に、大学病院、公的機関、製薬、食品、検査会社などのネットワークと、三井化学の材料、化学製品業界ネットワークは補完関係にあり、新たな研究開発や新分野領域への進出、新規顧客獲得が可能となる。



日発売決定、予約受付を開始したことが引き続き好感された。DNAチップ三井化提携

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は上値は重いものの底堅く、4週続伸しました。日経平均は週間で126円上昇しています。3Q決算発表が本格化するなか、FOMCやECB理事会の中銀イベントと米主要グロース企業の決算を消化する材料満載の1週FOMCで決定され、から米ハイテク株が見直されたことが支援に

好決算のグロース株狙う

週明けは日銀総裁人事を控え上況が続きそうですが、決算について内容で明暗を分けている銘柄への買いが下値を押し上げています。米国株市場は過剰感、ナスダックの動向、米ハイテク株買

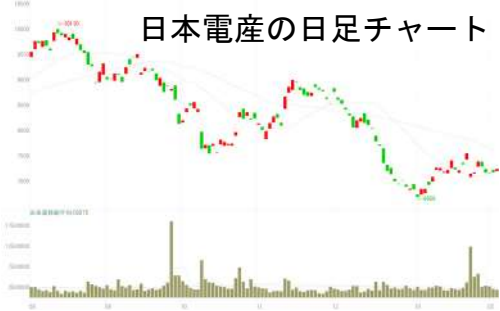
テノHDの日足チャート



日本電産は急反落

今3月期利益予想下方修正

25日、日本電産（659）が急反落。2023年3月期の業績予想について、連結営業利益で210億1000万円から11億1000万円へ下方修正した。



日本電産の日足チャート

（前期比35・4%減）へ下方修正した。IT機器・家電などの出荷ピークアウト、グローバル自動車生産回復の遅れ、米国住宅着工件数のスロウダウン、設備投資関連需要のピークア

海運株が大幅に下落

大手提携解消で競争激化懸念

26日、日本郵船（9101）、商船三井（9104）、川崎汽船（9107）の海運大手が大幅に下落。25日、世界最大手のコンテナ船会社MSC（スイス）と同2位のAPモーター・マースク（デンマーク）が船舶を共同運営する「2Mアライアンス」を25年1月末で終了すると発表したことを受け、競争激化によるオーク・エクस्प्रेस（ONE）への影響を懸念した売りに押され

テイビストの米エリオット・マネジメントが同社株式を買い増したと伝わったことを受け、需給や株主提案などへの思惑から買われた。エリオットは5%弱を取得、外部株主3位になったとしている。

26日、日本郵船（9101）、商船三井（9104）、川崎汽船（9107）の海運大手が大幅に下落。25日、世界最大手のコンテナ船会社MSC（スイス）と同2位のAPモーター・マースク（デンマーク）が船舶を共同運営する「2Mアライアンス」を25年1月末で終了すると発表したことを受け、競争激化によるオーク・エクस्प्रेस（ONE）への影響を懸念した売りに押され

日本パレットプール（4690）がストッパー高。23年3月期の業績予想について、売上高で71億8500万円から72億円（前期比1・5%増）へ、営業利益で7億円から9億5000万円（同2・1倍）へ上方修正した。レンタル稼働率向上に伴う貸与資産のメンテナンスコスト削減や効率的な運用による収支改善が想定以上に進んだ。

日パレット上方修正

2023年 **春** 新商品

株式会社 大森屋



「おいしさと栄養を子ども達へ」のテーマに強力な新戦力!

\ 新商品 /

彩り野菜と鶏そぼろふりかけ

緑黄野菜ふりかけ



小魚ふりかけ





おすすめポイント

- 1 子どもに食べさせたい野菜や摂らせたい栄養素を配合。
たんぱく質たっぷり!
鉄・ビタミンB6配合の栄養機能食品
野菜フレーク入りで彩り鮮やか!
- 2 鶏そぼろと甘い醤油の風味、卵のまろやかさが絶妙。
- 3 紙包材でプラスチック削減に貢献します。

緑黄・小魚シリーズの3品目としてデザインやイラストタッチを統一。

株式会社 大森屋 <http://www.ohmoriya.com/>

日置電機は急反発

3Qは17%増収23%増益

26日、日置電機(6866)が急反発

同社は25日の取引終了後、23年3月期の第3四半期累計(4~12月)決算を発表、連結売上高で343億7100万円(前年同期比17.2%増)、営業利益で70億7000万円(同23.0%増)と大幅増収増益になった。脱炭素化に向けた世界各国の取り組みを受け、重点市場の計測器需要は引き続き高い状態

態で推移した。

7日、信越化学工業(4063)が5日連騰。23年3月期の業績予想について、連結営業利益で9400億円から9270億円(前年同期比25.0%)

信越化学は5日連騰

上方修正と増配、自己株買、分割

25日、信越化学工業(4063)が5日連騰。23年3月期の業績予想について、連結営業利益で9400億円から9270億円(前年同期比25.0%)

円)へ引き上げた。シリコンウエハーなど半導体が好調を維持。同時に上限34万株(発行株の0.08%)、70億円

ペガサス上振れ期待後退

造(6262)が大幅下落。23年3月期第3四半期累計の連結決算は、営業利益23億円(前年同期比80.7%増)と大幅増益で着地、通期計画の23億5000万円(前期比27.2%増)をほぼクリアした。ただ、直近3カ月の10~12月期は4億円(前年同期比29.%)

転ばぬ先のテクニカル

節分天井?

先週の東京株式市場では日経平均は4週続伸、TOPIXは4週ぶりに反落となりました。米連邦公開市場委員会(FOMC)を通過した米国市場で、年内の利下げ期待が高まり、長期金利の低下を好感する形でナスダック市場が急騰。しかし、パウエル議長会見ではそうした示唆は見当たらず、違和感を覚える急騰劇との印象です。しかし、米主要3指数の中で出遅れていたナスダック指数がとうとう200日線をブレイクし、昨年8月末水準を回復。昨年10月以降形成してきたBOX相場を上放れたことからトレンド転換したことは重要です。

日経平均は節分の3日に2万7612円高値までありました。ただ、指数採用の値嵩株による上昇であり、2月入り以降は値下がり銘柄が目立つようになりました。1月相場が1200円超上げただけに、今月は調整月となりそうです。

日々勇太郎



1%減)と大幅減益で、大幅上振れ期待が後退した。

公開価格の3.7倍

テクノロジーズの初値テクノロジーズ(5248)が東証グロース市場に新規

上場、公開価格1000円の3.65倍をつけた。映像ソフト制作、AIなどデジタル技術関連システム開発、人材派遣会社向け業務管理システムを手掛ける。

結決算は営業終利益11億1500万円(前年同期比28.5%減)と大幅減益で着地、通期計画に対する進捗率は61.8%で、収益下振れが警戒された。

M&A総研は高進捗

M&A総合研究所(9552)がストック

フアナク増収増益分割

2月第1週の動意銘柄

週明け30日、フアナク(6954)が大幅続伸。23年3月期の第3四半期

累計決算は、連結売上高6361億1300万円(7%増)、営業利益1471億

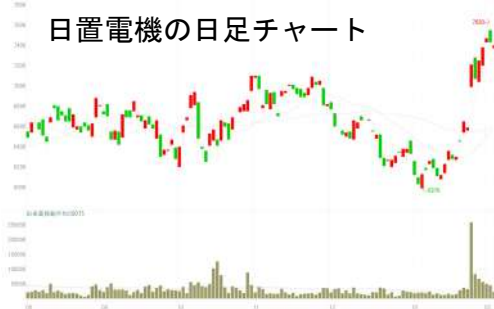
5800万円(同5.2%増)で着地、CNCシステムが中国を除き高いレベルで推移している。併せて1株を5株へ株式分割を発表した。

日本M&A下振れ警戒

日本M&Aセンターホールディングス(2127)がストック不安。23年3月期第3四半期累計の連

プ高。23年9月期第1四半期は、営業利益13億9800万円(前年同期比44.%)に達し、収益上振れが期待された。

日置電機の日足チャート



～決算情報～

カプコン

3Q減収減益も計画超過

4Qは新作寄与しデジタル販売好調

カプコン（9697）の23年3月期の第3四半期累計決算は連結売上高で796億7100万円（前年同期比9.6%減）、営業利益で333億3200万円（同5.0%減）、営業利益で236億1000万円（同11.6%減）となった。減収減益になったが、これは前年同期に大型新作を発売計上した反動によるもので社内計画比では上振れで推移している。野村 謙吉取締役専務執行役員 最高財務責任者（CFO）は「第4四半期では新作ではバイオハザード4リメイク版を計上するほかデジタル（ダウンロード）販売が好調」とし、通期予想の連結売上高1250億円（前期比13.6%増）へ、営業利益500億円（同16.5%増）へ、純利益365億円（同12.1%増）達成へ向けて視界は良好だ。

日本精線

第3四半期は13.4%増収

高機能・独自製品へ強い需要継続

日本精線（5659）の23年3月期の第3四半期累計（4～12月）は連結売上高で372億1500万円（前年同期比13.1%増）、営業利益で33億6600万円（同9.3%減）、純利益で24億2900万円（同9.0%減）となった。半導体関連業界向けの超精密ガスフィルター（NAS Clean）や太陽光発電パネルなどの製造プロセスで使用される極細線に代表される高機能・独自製品に対する需要の強さが継続したものの、その一方で、ステンレス鋼線の流通在庫の調整による販売量減少が操業度増につながら減益を余儀なくされた。通期は売上高485億円（前期比8.3%増）、営業利益44億円（同4.3%減）、純利益30億8000万円（同3.1%減）の従来予想を据え置いた。



修正した。主に先
業市場における販
1・9%増）へ上
から85億円（同
業利益で65億円
14・7%増）へ、
61億5000万円
高で560億円から

バルカー一時S高で新値

先端産業向け好調で上方修正

バルカー（7991）は31日、売が想定以上の水準となった。ギックス営業益12倍、ストライク大幅減収益

ク（2479）がス
トップ高まで買われ
昨年3月期の新し
た。23年3月期の
連結業績予想につ
て、経常利益を1億
5000万円から2億
8300万円（前
期比150%増）

ジェイテック17期ぶり最高益

み、通期計画の営業
顧客開拓も順調に進
継続して拡大、新規
ドサービスの利用が
大手クライアントの
データインフォーム
1・5倍と売り上げ、
利益が急拡大した。
万円の急拡大した。
営業利益19500万
期比81・0%増）、
300万円（前年同
決算は、売上高8億
24半期累計の単体
新。23年6月期第
で買われ最高値を更
9）がストップ高ま
（921

へ大幅に上方修正、
17期ぶりに去最高
益を更新を見込んだ
ことを好感した買
を集めた。テクノロ
ジストの稼働が順調
に進み平均単価も上
昇、全社的コスト削
減効果も表面化して
いる。

の、大型案件の期ず
同期を上回ったもの
だ。成約組数は前年
気した売りがかさ
で着地したことを嫌
減）と大幅減収減益
万円（同37・4%
業利益5億5800
16・4%減）、営
0万円（前年同期比
四半期の単独決算は、
23年9月期第1
96）がストップ安。
23年9月期第1
売上高19億690
0万円（前年同期比
16・4%減）、営
業利益5億5800
万円（同37・4%
減）と大幅減収減益

売が想定以上の水準
となった。
ギックス営業益12倍
ストライク大幅減収益

利益2億800万円
（前期比2・2倍）
をほぼクリアした。
ストライク大幅減収益

J
P
X

大阪取引所で第1回講義開催

大阪スタートアップ成長支援塾



スタートアップ支援塾

日に大阪取引所5階オーバルで開催された。

この支援塾は、大阪産業局等が運営するスタートアップ対象の支援プログラムの卒業生が、1年間にわたって資金調達から企業の成長戦略（IPO、M&A）までを体系的に学ぶ内容で、大阪府、大阪市と大阪取引所が締結した国際金融都市OSAKAの取組推進に関する事業連携

日本取引所グループ（8697）大阪本社と大阪府、大阪市の「大阪スタートアップ成長支援塾」の第1回講義が1月27

協定に基づき、実施するもの。支援プログラムを受けたスタートアップに対して、地域金融機関や証券会社、監査法人などが講師となり、実践に即した講義を提供することにより、スタートアップの更なる成長を支援し、リーディング企業の輩出につなげていくもので今年1月から12月まで2カ月に1回、全6回の開催を予定している。

第1回は「成長資金の調達と地域経済の活性化」と題して15名の塾生が参加。東京証券取引所の上場推進部の永田部長の冒頭挨拶のあと、JPX大阪本社推進担当 田村統括課長から支援塾の説明が行われ、大阪府市担当者から国際金融都市の実現に向けた取組み、りそな銀行・池田泉州銀行から金融機関の取組みについての説明がなされた。支援塾を通じた更なる成長支援により、大阪から数多くのリーディング企業の株式公開が期待される。

企業
レター

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら
marketpress.jpのバナーをクリック



星野三太郎の株街往来

～少子化の根本的原因～

岸田首

相が少子化対策に並々ならぬ意欲を示したことを受けて、株式市場でもテクノ・ホールディングスが安値から2・2倍になるなど賑わいを見せていた。これら関連銘柄の動きを見るだけだと対策は期待の持てるものだと感じてしまいが、冷静に考えると現金のばら撒きや単純な子育て支援だけでは少子化が改善するほど単純な甘いものではないだろう。

ちなみに筆者の母が居住するマンションでは親と同居する中年の独身がこの5～6年でもかなり増えている。理由は様々だろうが、筆者が知る限りでは派遣などの薄給で結婚する機会が無くなり、そのまま親との同居で月日が過ぎてしまったというのもの。スマホやタブレットで動画が無料で見れるから自宅一日中部屋にいても暇にはならないという話も聞いた。

少子化の最大の問題は結婚しない人生に不満を持たない人が増えたこと。それには政府がこの数十年間進めた終身雇用制度の崩壊や労働派遣法の拡充、IT化などによる生活環境の変化などが複雑に絡んでいる。



New product

アサヒ 春限定国産いよかん

「贅沢搾りプレミアム」2月7日全国発売

贅沢搾りプレミアム春限定国産いよかん



アサヒグループホールディングス（2502）グループのアサヒビールは、「アサヒ 贅沢搾りプレミアム春限定国産いよかん」を2月7日から全国で発売する。2月に旬を迎える国産いよかん果汁を5%使用したチューハイ。いよかんの爽やかな香りと甘みや酸味が楽しめる。パッケージは商品特長が一目で分かるよう“国産果実使用”“贅沢搾り PREMIUM”“いよかん”と記載。和紙をイメージした背景に桜の花びらを散らすことで春限定であることを訴求している。「贅沢搾りプレミアム」の限定商品は、国産果汁を使用することにこだわっている。希望小売価格は172円（税別）。

「とばしまメモリー」デビュー

近鉄グループHD

ラッピング列車で鳥羽・志摩の魅力発信



とばしまメモリー

近鉄グループホールディングス（9041）傘下の近畿日本鉄道は、鳥羽・志摩の魅力発信する新たなラッピング列車「とばしまメモリー」2編成（1編成2両）をデビューさせる。1編成目は、「と

ばしまメモリー」なみの章」として2月6日から、2編成目は、「とばしまメモリー」うみの章」として2月下旬から運行を開始。

「とばしまメモリー」は、鳥羽市、志摩市と協働でデザインや名称を考案し、鳥羽・志摩エリアの魅力をつづり詰めて込んだ「乗って楽しい、見て楽しい」観光ラッピング列車。主な運行区間は伊勢中川駅から賢島駅（一部、近鉄名古屋駅から伊勢中川駅間も運行）で、運賃のみで乗車可能。現在、「MEMET SMILE! 伊勢志摩」も開催中で鳥羽・志摩エリアの魅力がPRされている。

企業レター

潮流

小型株に資金が流入

テクニカル指標過熱感ないグロース

marKet/bAnk



ック総合株価指数は11%上昇し、上昇率は2001年(12%)以来の大きさとなった。ダウ平均は3%上昇した。

1月の特徴は22年の株安局面で下げが大きかった業種の上昇だ。S&P500の構成業種ではIT(情報技術)が9%、金融が7%それぞれ上昇した。特に半導体や関連部品は16%上昇した。個別銘柄でみるとアップルが11%、メタ(旧フェイスブック)が24%、テスラが41%それぞれ上昇。反転上昇の背景にあるのが景気のソフトランディング期待だ。22年10~12月期の米実質国内総生産(GDP)が前期比年率で2.9%増と堅調だった事やインフレの鈍化を受け、ソフトランディングの可能性が高まった。

また、1月の米株高はヘッジファンドによるショートカバー(買い戻し)と、ロングポジション(買い持ち高)の追加によるテクニカルな要因がある。日本でも海外投資家は1月に1兆2588億円買い越した。1月は株価が上昇する確率が高いとされる「1月効果」がある。1月の相場の方向性が年間相場の方向性を決める

キャンパスの日足チャート



日経平均は1月の月間ベースで5.7%上昇した。ハイテク株の多いナスダ

ク総合株価指数は11%上昇し、上昇率は2001年(12%)以来の大きさとなった。ダウ平均は3%上昇した。1月の特徴は22年の株安局面で下げが大きかった業種の上昇だ。S&P500の構成業種ではIT(情報技術)が9%、金融が7%それぞれ上昇した。特に半導体や関連部品は16%上昇した。個別銘柄でみるとアップルが11%、メタ(旧フェイスブック)が24%、テスラが41%それぞれ上昇。反転上昇の背景にあるのが景気のソフトランディング期待だ。22年10~12月期の米実質国内総生産(GDP)が前期比年率で2.9%増と堅調だった事やインフレの鈍化を受け、ソフトランディングの可能性が高まった。また、1月の米株高はヘッジファンドによるショートカバー(買い戻し)と、ロングポジション(買い持ち高)の追加によるテクニカルな要因がある。日本でも海外投資家は1月に1兆2588億円買い越した。1月は株価が上昇する確率が高いとされる「1月効果」がある。1月の相場の方向性が年間相場の方向性を決めるというアノマリー(経験則)もよく知られている。

日経平均では2007~

22年までの15年間で1月の騰落率と一騰落率と一致したのは8回と、過半数を占めている。米ハイテク株の上昇に連動して、日本市場では小型株が回復している。東証株価指数(TOPIX)採用銘柄のうち、

時価総額上位500社を除いた銘柄で構成する「TOPIXスモール指数」が2カ月ぶりの高値となった。

大型株が年初からの上昇が一服する中、上方修正を発表した好業績銘柄などに資金が向かっている。小型株は欧米の影響を受け難い銘柄も多く、好業績に素直に反応する。個人による小型株の売買はかなり活発で、内需株や好調なテックなどに資金が流れている。プライム市場に比べ、グロース市場はまだテクニカル指標が過熱感を示していない銘柄が多い。

2月の米連邦公開市場委員会(FOMC)は「ディスインフレのプロセスが始まった」とパウエルFRB議長の発言があり、無事通り過ぎた。決算後のハイテク株の上昇が続けば、日本では個人を中心に好業績の小型株を物色する動きが続くだろう。

潮流銘柄はキャンパス(4575)、B EENOS(3328)、monoAI technology(5240)。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

好業績に反応し売買活発

日銀総裁人事に関心

底堅いが膠着感強い展開

先週の日経平均は前週末比約126円高となり4週連続高となった。米欧中央銀行の利上げが市場の予想通りとなったことで波乱はなかったが、3週間で約1800円強上昇していたので高値もみ合いの展開となった。

が、中国の脱コロナ後の経済回復期待や米国経済の過度なリセッション懸念が後退し下値も堅い展開であった。

先週は2万7400円台を中心に週間で値幅が約300円と膠着感の強い相場であった。2万7500円台に乗ると短期筋は売りを入れているようだが

今回、FRBが急速に金利を引き上げても大きなリセッションに陥らないとする根拠として、コロナ禍でばら撒かれたお金の累積過剰貯蓄額に注目する投資顧問がある。それによると2020年2月から12月に1・5兆ドル（約195兆円）とピークの2・4兆ドルから減少したもののまだ余裕があり、この貯蓄を少しづつ切り崩しすことによりインフレを乗り越えるというものだ。

企業の平均想定レートである135円を抜けてくると株の買戻しも活発になると予想する。その面でも10日に発表予定の日銀総裁人事には注目が集まる。日銀総裁人事は海外投資家からも注目度が高いため、今週底堅いが膠着感の強い展開を

日経平均にしてもチャート上はここは一旦調整するところと考える投資家も多く、事実空売り比率が先週の40%から45%まで上昇している。また、マクロ系のファンでも日本株に関しては売り持ちのポジションが多い。週末には節目である2万7500円を超えて引けており、空売りの買い戻しが入れれば一段高も期待できる状況だが、企業業績に不透明感が強く大きな上昇は見込めそうにない。短期的に支援材料として期待できるのは「円安」しかないだろう。為替も年初からの急激な円高が落ち着き反転の気配が見える。

日経225先物の日足チャート



予想する。



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

新型コロナの影響で景気サイクルが読みにくくなったのは事実であり、経験則が通用しなくなっているのも事実である。

ドル円の日足チャート



7日の高値（2万9222円77銭）を起点とする上値下押しトレンドが2万7800円処に位置してきているので、目の抵抗ラインとなりそうである。抜けてくると12月15日の窓埋め（2万7987円54銭）や2万8000円台回復が見えてこよう。一方、下値は5日線（2万7404円処）、上昇する転換線（2万7382円処）、75日移動平均線（2万7245円処）、雲の上限（2万7082円処）があげられよう。

今週のレンジは2万7250円から2万7900円を想定する。
(ハチロク)

記者の視点 相場見通し

日銀総裁人事を注視

週後半に向け様子見か？

2月第1週の東京市場は前週に引き続き日経平均で2万7300円台前後でのみ合いに終始した。注目されたFOMCでは市場予想通り0・25%の上げ幅にとどまり、FOMC後のパウエル議長会見では年内の利下げ観測を否定したものの、インフレが鎮静化へ向かい始めたとの認識をポジティブに捉えてニューヨーク市場でのナスダックの大幅高を背景に週末には2万7500円に乗せて引けた。

ニューヨーク市場での急ピッチな上昇を受けてパウエル議長からは牽制発言があったが、1・2月から金融環境はあまり変化していないとの発言がでたことでマーケットには安心感が広がったようだ。今週は7日のワシントン・エコノミックスクラブでのパウエル議長講演を皮切りに8日にウイリアムズNY連銀とウォーラー理事の発言機会がある。これらのイベントでマーケットの動きをけん制すべくタカ派的な発言がでなければニューヨーク市場の基調に變化はないだろう。一方、国内では日銀の次期総裁に1つ事案を軸に提示する。この提示が市場に与える影響は大きい。

エル議長からは牽制発言があったが、1・2月から金融環境はあまり変化していないとの発言がでたことでマーケットには安心感が広がったようだ。今週は7日のワシントン・エコノミックスクラブでのパウエル議長講演を皮切りに8日にウイリアムズNY連銀とウォーラー理事の発言機会がある。これらのイベントでマーケットの動きをけん制すべくタカ派的な発言がでなければニューヨーク市場の基調に變化はないだろう。一方、国内では日銀の次期総裁に1つ事案を軸に提示する。この提示が市場に与える影響は大きい。

現副総裁の雨宮正佳氏が選ばれば円安につながる。中曽宏前副総裁なら円高との見方が支配的。さらに2013年まで日銀副総裁を務めていた山口廣秀氏なら超金融緩和政策の早期終了観測が強まり、急速な円高から株価が急転直下調整に向かう可能性も否定できない。米雇用統計が無事通過して週初は2万8000円に近づく可能性があっても週後半は様子見の展開となる。決算では7日にソフトバンクグループ(9984)、9日にトヨタ自動車(7203)や東京エレクトロン(8035)など主力企業の発表が相次ぐ。

編集後記

花粉症シーズンを迎えた。前年の夏は気温が高く、日照時間が多く、雨の少ないという条件が多く形成された。飛散量は過去10年間で最大になるらしい。筆者は重度の花粉症で毎年1月下旬から服薬するなど早めの対策をしているが、症状がなかった人が発症するケースも増えるという。今年は花粉症へ最大の注意が必要ということだ。順調に戻ってきた東京市場だが、上値が重くなってきた。2月は前年10月に次ぐ値上げラッシュ、日銀人事と政策に注意を。



ソフトバンクGの日足チャート
トヨタの日足チャート

今週のスケジュール

- 7日 12月家計調査
12月景気動向指数
米12月貿易収支
バイデン米大統領一般教書演説
- 8日 1月景気ウォッチャー調査
- 9日 1月マネーストック
- 10日 1月国内企業物価指
政府は日銀正副総裁の後任人事案について2月10日を軸に国会提示を検討
オプションSQ
中国1月消費者物価、中国1月生産者物価
米2月ミシガン大学消費者マインド指数
- 14日 10-12月期GDP改定値
米1月消費者物価
- 15日 12月第三次産業活動指数
1月訪日外客数
米1月小売売上高
米1月鉱工業生産・設備稼働率
- 16日 12月機械受注
1月貿易統計
米1月住宅着工件数
米1月生産者物価

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたいたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。